

「学習効果」の上がる「学習方法」を考える

－「学習効果」＝「学習方法」×「学習時間」とは－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

①「学習効果」＝「学習方法」×「学習時間」という学習効果を上げるためのおもしろいかけ算の公式について今日はお話します。

②この公式は、「学習効果をどのように上げたらよいか」を考える時に使うと役に立ちます。この公式は、学習効果を上げるためには「学習方法」と「学習時間」が大切なことを示しています。この公式は、かけ算ですから、いくら「学習方法」がすぐれていて、100 満点と素晴らしくても「学習時間」が 0(ゼロ)か 0 (ゼロ) に近ければ、 $100 \times 0 = 0$ で答えは 0(ゼロ)、つまり「学習効果」はゼロかゼロに近くなります。また、いくら「学習時間」を確保して 100 点満点と素晴らしくても「学習方法」がまったく間違っていて 0(ゼロ)か 0 (ゼロ) に近ければ、かけ算ですから「学習効果」はゼロかゼロに近くなります。このように「学習効果」を上げるためには「学習方法」をよく考え、また、「学習時間」をきっちり確保しなければならないことをこの公式は教えてくれます。

③では、学習効果を上げるためにどのような「学習方法」をとり、また、「学習時間」を確保したらよいのでしょうか。今回は前半の「学習方法」を考えます。

2. 「学習効果」の上がる「学習方法」を考える。

①「学習効果」を上げる「学習方法」を考えるときに最も大切なことの一つは、学習を「理解」→「定着」→「応用」という 3 つのステップ(段階)にはっきりと分けて考えるということです。

②「理解」というのは、例えば、 $5 \times 6 = 30$ というかけ算を習うとしたら、5 に 6 をかけるということは何か、その結果どのようにして 30 という解答が導かれるか、その理由、道筋、物の考え方をゆっくりと時間をかけて考える。その結果そうか、そうだったのかと納得する。腑(ふ)に落ちるということを意味します。

「日本国憲法の三大原理とは、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義である」ということを「理解」するには、「日本」とは、「国」とは、「日本国」とは、「憲法」とは、「日本国憲法」とは、から始まって、「三大」つまり三つの「原理」とは何かを深く考え腑（ふ）に落ちるまでもっていき、「国民に主権がある」の「国民」とは何か、「主権」とは何か、合わせて「国民主権」とは何か、「人権」とは、それに「基本的」がついた「基本的人権」とは、それを「尊重」するとは何か、「平和」とは、「主義」とは、合わせて「平和主義」とは……。学年が進んできたら、このように物事を深く深く掘り下げて「言葉」の意味やその奥に流れる考えをよく考え、納得つまり腑（ふ）に落ちるところまでもっていくことが「理解」のステップ(段階)では大切です。

このような意味での「理解」するためには、教えて下さる先生のお話を授業中静かに聴きすること、よく考えた上でなお分からなければ先生に質問させて頂くことも大事です。本で勉強するときには、先生のお話を教室で聴きするような態度で、考えながら本をゆっくり納得するまで一語一語読み込むこと、分からなければ時間をとり、自分で考えたり、辞書や他の本にあたること、友だちや先輩と話したり、それでもよく分からなければ先生に許可を得てご質問させて頂くことが大事です。これが「理解」することの意味です。

- ③「定着」とは、「理解」したことを「身につける」つまり、「何も見ないで口をついて言えるまでにする」さらに、「何も見ないで口をついて言えるまでになったことを正確に書ける」、この二つを意味します。

「定着」とは、「 $5 \times 6 = 30$ 」や「日本国憲法の三大原理は国民主権、基本的人権の尊重、平和主義である」の意味が「理解」できたらそれをそのまま覚えこむ、つまり、スラスラ空で何も見ないで言えるまでにすること、文字つまり、数字や仮名(かな)や片仮名(かたかな)、漢字を正確に書けるようにすることを意味します。英語でしたら本文や基本文をすべて覚えこみ空で言えるようにした上で、何も見ないで1ページ分スラスラと書けるまでにすることが「定着」の意味です。この「定着」のステップは、学習者が一人で行う「作業」が全てです。コツコツと覚え込むこと、書く練習をすることが「定着」のすべてと言えますので一人で行う「作業」と言えます。この「定着のための作業」には時間がかかりますので十分時間をとってください。ただ、まとまった時間でなくても「定着のため作業」はできます。細かな時間をつなぎ合わせることも可能です。「寸暇(すんか)を惜しんで」という表現は「定着のための作業」のためにあるとさえ言えます。「寸暇(すんか)を惜しんで定着のための作業」をして下さい。(先生の出番はここでは余りありません。念のため。)

- ④「理解」→「定着」まで終了したら最後は「応用」のステップ(段階)に入ります。

「応用」には二つの意味があります。一つは「テストでは良い点が取れること」つまり、「テストで得点できること」。もう一つは「実際の生活で役に立てられること」。この二つです。

「テストで良い点が取れる」ためにはどうしたらよいでしょう。今まで、どのような問題が出

題されたか、5～10回分くらいやってみて、できないところをもう一度やり直すのが一番早い道です。基本的なところができなかったなら、その原因は「理解」が足りなかったのか、「定着」のための作業が不足したためなのか、はっきりさせ、ステップごとにやるべきことをやり直すことが大事です。基本から離れた少し難しいことができなかった場合には、よりレベルの高いテキストや参考書に入り込み、「理解」→「定着」を目指して下さい。

もう一つの「応用」の「実際の生活で役立てられること」は、あせることなく、また、はずかしがらず「理解」「定着」したことを少しずつ勇気をもって使ってみることです。ひき算を勉強したら買い物に行き、おつりを暗算や紙に書いて計算する筆算を試してみる事です。新聞を読んでいて人権侵害と思われるような事件があったら、これは、日本国憲法に照らして考えるとどうかな、などと考えてみると、「応用」力が少しずつつきます。

3. おわりに

- ①「学習効果」を上げるためには、「理解」「定着」「応用」のステップの中で、今自分はどこのステップを勉強しているのかを明確に意識して、そのステップに合った方法をとることが大事です。
- ②「教えている先生」も、「理解」「定着」「応用」のどの段階かを明確にしながら教えないと「学習効果」が上がりませんので、先生方も注意が必要です。
- ③1か月後の中間試験にむけ、今回の「学習方法」を上げるかけ算の公式を是非おためし下さい。

以上